

学習指導案(国語科)

- 一 対象 第二学年八組
- 二 日時 二〇二二年十月七日(木) 五限
- 三 場所 二一八教室
- 四 単元名 「小景異情」『現代文B 改訂版』(筑摩書房)
- 五 単元について

(一) 単元の目標

- (ア) 詩の形式を理解させる。
- (イ) 詩を朗読し、その魅力を理解させる。
- (ウ) 表現の工夫・音律・効果をあげ、詩の個性を考えさせる。
- (エ) 詩の書かれた状況、背景を考え、作者が詩に込めた意図・心情を考えさせる。

(二) 教材観

室生犀星の自身の「故郷」への複雑な思いが濃く表れているとともに、孤独な自分は、遠い(物理的・心理的に)ふるさとを思いながら異土である東京で頑張っているという強い決意が表れている詩。室井犀星の生い立ちを知ることでのこの詩をより深く理解できる。

筆者にとつてのふるさとの二面性、詩中「遠き」(心理的距離と物理的距離)、最後の繰り返し表現、以上の三つには必ず触れたい。

文語自由詩である。文語特有の響きや、自由詩ではあるものの七五調のリズムも感じられる。

(室生犀星にとつて故郷は良い思い出があるとは言えない。しかし、室生犀星自身のアイデンティティにとつて無くてはならない大切で重要なものであることを彼自身は強く意識している。「故郷への複雑な思い」と聞いて、ピンと来ない生徒も多くいると考えられる。しかし、自分の将来や進路などについて考える為に自身の内面やルーツを見つめ直す中で、過去の辛い経験や抑圧と向き合うことになる生徒も多いのではないだろうか。「感情を消化できていない経験も含めて、今の自分を形作っているものである」と認めることで前に進める場合がある。そのような点では、生徒にとつて共感出来る詩であるとともに、背中を押すような力強い詩ともなるかもしれないと感じた。)

(三) 生徒観

大多数の生徒が大学への進学を希望している普通科GS科と違い、大学や専門学校への進学、就職など、進路は様々であり、学力の差も大きい。自由な発言が目立ち、問いかけには想像力を膨らませてオリジナリティのある解答が得られると予想する。漠然とした質問を投げかけると脱線してしまい戻ってこれないことがあるため、注意が必要である。興味を持てる導入を考えることが大切である。

(四) 指導観

高校で詩は初めて学習するため、詩に久しぶりに触れる生徒も多い。詩の形式から確認する。まだ「故郷」から離れることや、自分の故郷についての感情に目を向ける機会が無い生徒が多い。

六 単元の評価規準

E 知識及び 技能	思考力・判断力・表現力等			A 学びに向かう人間性
	D 聞くこと・ 話すこと	C 書くこと	B 読むこと	
<p>ア) 言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。</p> <p>イ) 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深める。</p>	<p>詩を効果的に朗読したり、それを聞きながら情景を的確にとらえたり、表現を味わったりすることができる。</p>	<p>(深く共感し、豊かに想像する力を伸ばす。)</p>	<p>ア) 文章の種類を踏まえ、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。</p> <p>イ) 語り手の視点や場面設定の仕方、表現の特色について評価することを通して内容を解釈する。</p> <p>ウ) 他の作品と比較して文体の特徴や効果について考察する。</p> <p>エ) 文章の構成や効果について考察する。</p> <p>オ) 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捕らえるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係をふまえ、作品の解釈を深める。</p>	<p>詩を読むことに楽しさや興味を感じている。</p> <p>言葉が持つ価値への認識を深める。読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>

七 単元の計画 (総時間一時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価の観点)
一	1	<p>・詩の形式を理解する。</p> <p>・七五調やことばの繰り返し及び作り出す韻律の効果を理解する。</p> <p>・作者の「ふるさと」への思いがどのように表現されているかを考える。</p>	<p>生徒自身が気づき、感じられるようにする。</p> <p>作者にとってのふるさとの二面性を理解する。</p>	<p>詩を読むことに楽しさや興味を感じているか。…(A)</p> <p>感情を盛り込んで朗読できるか。音読の態度は積極的か。…(D)</p> <p>作者の心理や思いがどのように表現されているかを理解しているか。…(B)</p> <p>詩の中のことばを手がかりにして、それぞれの詩の主題を理解することができるか。…(B)</p> <p>語句の意味や用法を理解しているか。…(E)</p>

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価の観点)
導入 七分	詩の形式の説明 (板書) 「ふるさと」はどのような存在か 考える。(出た答を板書)	Qこの詩の形式は? ↓文語自由詩(七五調を基調とする) 「故郷」とは生まれ育った地のこ と。Q「ふるさと」はどのような存 在か? ↓あたたかい心地良いも の	語句の意味や用法を理 解しているか。(発問) ……(E)
展開 三十八分	詩を読む。 音読 (斉読) 本文書き写し (板書) 詩のリズムについて言及 一行目〜二行目解説 発問から。 作者の、自身のふるさとに対 する感情を理解する。	七五調、よしや 六編の連作の中の二番目 Qなぜ遠くでなければいけない のか (ヒント 悲しくうたふもの) ↑(恋しいなら行けば良いので は? 行けない事情が? 遠いから 行けない?) ←答え	感情を盛り込んで朗読で きるか。音読の態度は積 極的か。(授業時の反応) ……(D) 詩を読むことに楽しさや 興味を感じているか。(発 問) ……(B)
三行目〜五行目	作者について知る (室生犀星 の生い立ちの説明)。 ↓冒頭の心情に戻る。犀星にと つてのふるさはあたたかいと意 はいえない思い出の地であるこ とを理解。 よしやうらぶれて…まじや 異土 Ⅱ 東京 乞食 Ⅱ 物乞い	Q再)なぜ遠くにありてなの か? (ヒント 悲しくうたふも の) 確認。 Q異土と対になっている詩中の 語は? ↓都 (みやこ) 乞食の意味確認	詩人が置かれていた環境 や、時代背景・思想的背景 を理解しているか。(発 問) ……(B)
六行目〜七行目	ひとり都の…涙ぐむ		語句の意味や用法を理解 しているか。(発問) …… (E)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価の観点)
展開 三十八分 八行目 「その」↓前半まとめ 後半 九行〜十行	「みやこ」はどこを指しているのか考える。 「遠き」は心理的距離。 一行目の「遠き」は物理的距離と心理的距離の二つの意味が込められている。 ① 作者にとって「ふるさと」には二つの側面があることがうかがえる。 ② 東京と故郷、どちらも遠い孤独である。 孤独を感じながらも、異土である東京で自分は暮らしていこうという強い意志が感じられる。	「その」は前二行にかかっている詩の中のことがばを手がかが、前半の「ふるさと」への複雑なりにして、それぞれの詩の「思い」全体を指す。 Q「遠いみやこにかえりたい」の違和感？(ヒント…筆者はどこにいる？) Q最後の「みやこ」はどこか？ A「東京」。文中の「都」は東京を指しているから。 (例) 推し、恋愛の表現	詩の中のことがばを手がかが、それぞれの詩の主題を理解することができるか。(発問) …(B) 詩を読むことに楽しさや興味を感じているか。(発問・授業時の反応) …(A) 語句の意味や用法を理解しているか。(発問) …(B)
まとめ 五分	復習 Q「遠きみやこにかへらばや」わざわざ二回繰り返されていることでのどのような効果があると感じる？何を表している？	↓都で暮らす決意の強さ (心理的に遠い都に帰る理由について復習や詩の感想)	作者の心理や思いがどのように表現されているかを理解しているか。(発問) …(B)

文語自由詩 詩

小景異情

室生犀星 犀川

物理的距離
心理的距離

金沢 幼少期つらい思い出
ふるさとを遠きにおいて思ふもの

そして悲しくうたふもの 詠

よしや 仮に

落ちふれて 東京 かもめ
うらぶれて 異エの乞食となることも

帰るところにあるまい 嘆

ひとり都のゆふぐれに

ふるさとおもひ涙ぐむ

そのころもて 心理的距離

遠きみやこにかへらばや 東京 注意

遠きみやこにかへらばや

くり返し。
東京はふるさとどころも心理的に遠い
↓ 孤独である。
東京で詩人として生きていく
強い決意。

抒情小曲集

生涯はとておもしろい

小景異情

室生犀星 むろうさいせい

ふるさとは遠きにありて思ふもの

そして悲しくうたふもの

よしや

うらぶれて異土の乞食かたなとなるとても

帰るところにあるまじや

ひとり都のゆふぐれに

ふるさとおもひ涙ぐむ

そのころもて

遠きみやこにかへらばや

遠きみやこにかへらばや

（抒情小曲集）

10

5

室生犀星 一八八九（明治三二）—一九六二（昭和三七）年。詩人・小説家。石川県に生まれた。本名、照道。貧窮と放浪の生活の中で、独特の自由詩型を作り上げた。詩集に「愛の詩集」、小説に「あにいもうと」などがある。本文は「室生犀星全集」第一巻によった。